

第2回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成28年11月30日（水） 14:00～16:00	場 所	東海村役場 行政棟5階 原子力視察研修室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，久賀委員，川亦委員，坪委員，安尾委員，荒木田委員， 原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，川崎（道）委員 事務局／村長公室 企画経営課 関田課長，高橋課長補佐，照沼主事 建設農政部 都市整備課 庄司課長，大友課長補佐，照沼主事，大内技師 欠 席／鈴木（さ）委員，鈴木（千）委員 <div style="text-align: right;">（◎：委員長，○：副委員長）</div>		

○当日の活動・協議内容

1 開会（企画経営課関田課長）

2 小原委員長あいさつ

年の瀬も迫り，非常にお忙しい中お集まりいただき，誠に感謝申し上げます。第1回の委員会の後いただいたご意見を拝見しますと，驚くほどたくさんのご提案をいただき，東海村でこれまであまり日の目を見なかったような資料まで添付されており，今後の可能性が広がったと感じています。前回は説明が中心でしたが，本日ははいよいよ，村始まって以来ではないかというほどのゼロベースからのまちづくりについて，委員のみなさまにご議論いただき，土台づくりへ入ることとなります。最近では，県南を中心に，こういった会議のあり方も多様化しています。マスコミに取り上げられているものでは「子ども会議」や「中学生会議」等が注目を集めています。私はこの部屋に入り，最初に席の写真を撮らせてもらいました。おそらく，村の委員会の中でもこれほど上位に位置付く委員会でワークショップ形式を採用することは，非常に珍しい試みではないかと思っています。ワークショップ自体は，まちづくりの手法として全国的にも定着しつつありますが，これほど上位の委員会で，これほどのメンバーでワークショップを行うのは非常に画期的な取り組みです。

本日から具体的な議論を進めることとなりました。繰り返しとなりますが，今回はゼロベースからの議論となります。特に議論の方向性を定めてはおりませんので，みなさまのお力によるところが大きくなります。2時間の長丁場となりますが，様々なご意見を出していただき，今後につなげたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

3 議事（進行：小原委員長）

議題（1）村松地区（全体）のにぎわいづくりについて

===資料及び参考1，2について説明（企画経営課 照沼主事）===

※質疑なし

※以降，A・Bグループに分かれ，グループワークを開始

(議論テーマ)

どのような取組みをすれば、村松地区がさらににぎわうと思いますか

Aグループ

※冒頭約5分間で各自の意見をポストイットへ記入。

<話し合いの方法についての議論>

- 次回、コンセプト決めを行うことを考慮しなければならない。この地区全体で、どのようなことをコンセプトとして、にぎわい作りをしていくのか意見を出し合っていければよいと思う。この地区をどのようにしていきたいのか、この地区にどのような良いところがあるのかを、さらに洗い出ししていければよいと思う。
- 何を魅力として打ち出していくのか。その魅力をどのように、どこに創出していくか意見出しを行うことができればよいのではないだろうか。そのような意見を洗い出ししていれば、この地区のコンセプトやテーマに繋がっていくのではないと思う。
- より具体的なことも出てくるかもしれないが、そこからコンセプトやテーマに繋がっていくものもあると思う。「何を魅力にするか」ということ別に付箋を分けていっても良いと思う。
- 書き出してもらったものを見ると、この地区の『自然』や『歴史』、『科学』等の魅力が出てきている。これらのものを地区別に分けるのではなく、カテゴリ別に分けた方が全体として(一体として)何を目指していくのか、何が重要なのかということが見えてくるのではないだろうか。
- 書き出してもらったものをカテゴリ別に分けていきたい。どのようなカテゴリに分けるかについても話し合っていければと思う。
- 『歴史』的なものの活用や『自然』の保全や活用等から話し始めていってもよいのではないか。
- まずは、似た意見毎にまとめていく方法でよいのでは。その後のステップとして、コンセプトやテーマ別、ソフト面やハード面の別というように段階的に進めていければよいのではないと思う。
- より具体的なものやイメージ的なもの、両方があるが、それぞれ近いニュアンスのものをまとめていけば、全体的なコンセプトやテーマ、そこからエリア毎のものへ繋がっていくだろう。
- 似た意見同士をまとめることができれば、その後にコンセプトやテーマに繋がっていきそうだ。

※意見(ポストイット)については、別紙のとおりカテゴリ分けを行った。

※付箋以外の主な意見を以後記入する。

<道の駅機能、休憩、食事等>

- 地域住民の働く場となったり、生きがいを見つけられるような場所の創出が必要ではないか。
 - 働く場所、稼げる場所、経済的・生産的な面からみても良い場所(地区)にしていければ、おのずと「にぎわい」が生まれてくるのではないと思う。
 - 「人を呼ぶ」ということは、「お金を使ってもらう」「お金をおとしていってもらう」ということに繋がっていく。
 - 「道の駅」整備・立地というのは実現可能性はどの程度あるのか？
- ⇒ 実現可能性がどの程度あるかどうかというものではなく、0ベースから、地区の活性化・にぎわいのために、どのような方向性を持たせるか、どのような考え方・テーマ・コン

セプトを打ち出していくかということは今後考えていくことになる。

<景観>

- 春夏秋冬が感じられる地区としていきたい。
- 地区全体の見た目（景観）が美しくなると良い。そのためには、景観の整備（ハード整備）だけではなく、その維持活動を続けていくというソフト面の仕組みづくりが必要になってくると思う。そのような仕組みづくりについても考えていければよいと思う。
- 「にぎわい」や「人を呼び込む」となれば、景観整備が一番重要だ。「あそこを見に行こう」や「あそこに行ってみよう」という気持ちが湧いてくるのは、景観が整っている所だと思う。

<駐車場の確保>

- 大神宮や虚空蔵堂へ訪れる方は、目的のためだけに来ている傾向があるように感じる。午前中からお昼にかけては、ひたちなか地区で買い物等を行い、午後には目的のために立ち寄っていくという傾向が大いにあると思う。駐車場の確保については、多いことに越したことはないが、生活スタイルや利用状況をしっかりと見極めていく必要がある。
- 一箇所に大きな駐車場を整備するのもよいと思うが、国道245号を横断しないような方法、駐車場を点在させる等、さまざまな方法を考えていければと思う。国道による（エリアの）分断、横断しなくてはならない面倒さ、危険性ということ等も考慮していきたい。

<防災への配慮>

- ある程度の高台に「道の駅」のようなものが整備されれば、防災の視点からも地区の中心的存在になっていくのではないだろうか。

<来村者へのおもてなし>

- 何回訪れても楽しく「ワクワク」するような場所を創出できれば良いと思う。
- 外国人との交流が図れる場所を創出できれば良いと思う。

<歴史>

- 東海村の始まりを学ぶような機会を作り出せると良いのではないかな。
- 承継地としての役割を果たせるような仕掛けが必要だと思う。
- 一度のお出かけで何箇所も神社やお寺を巡ることが流行っていると聞いたことがある。阿字ヶ浦（ひたちなか市）や大洗町、日立市等と連携して一体的に巡ることができるようにしていくことも良いのではないかな。

<科学>

- 科学と「学び」という考え方は繋がるものがある。
- 東海村だからこそ「学べる科学」「触れられる科学」等をアピールしていければ良いと思う。最先端の研究施設や研究者との交流等もポイントとなるのではないかな。

<全体（その他）>

- 『動線』『つながり』が大事だ。単に、駐車場から近くの目的地までのルート整備というものではなく、例えば、阿漕ヶ浦公園から大神宮・虚空蔵堂へのルートが確保され、それぞれのエリアが繋がり、行き易くなってほしいという考えである。例えば、歩道橋や隧道のような対策をとって、拡幅される国道245号によって地区全体やエリアが分断されたくないという思いがある。水戸の偕楽園は、膨大な敷地内を行き来しやすいような工夫がある。
- 陸側と海側を上手に繋ぐような対策・工夫を考えていきたい。
- 各エリアがスムーズに繋がり、全体的に「歴史を感じられる場所」「科学に触れ合える場所」「多様な世代が休憩する、遊ぶ、交流する場所」「季節を感じる場所」と役割分担を

し、まるごと博物館的な考え方を持つことも良いのではないかと思います。

- エリア毎にバラバラにテーマを持って整備してしまうと、テーマ的・一体的な統一性が欠けてしまう。全体的なテーマとしては、繋がり性・統一性というものが重要になっていくのではないかと。
- 次回は、今回カテゴリ分けしたものから、テーマ的な単語やこの地区の目指す方向性を見出すための言葉等を導き出していきたいと思う。カテゴリ分けしたものについても、さらに細分化していく作業が行っていけば良いのではないかと。

Bグループ

※冒頭約5分間で各自の意見をポストイットへ記入。

※意見（ポストイット）については、別紙のとおり、エリア別にカテゴリ分けを行った。

<駐車場の確保について>

- 現在も駐車場が不足しているが、国道245号拡幅に伴い、さらに不足する。
 - 付箋の「駐車場の確保（原研グラウンド）」とはテニスコート等がある場所のことで、今年の花火大会の際も、駐車場として開放した場所だ。原研グラウンドへの駐車場の設置について、前回委員会の際、原子力機構副センター長の藤田委員とお話ししたところ、村からのアプローチがあれば、原子力機構としても検討したいとのことだ。
 - 細かい所にいくつも駐車場を造るよりも、原研グラウンドほどのスペースが理想ではないだろうか。将来的に、J-PARCへの進入路も確保しやすくなるのではないかと。
 - 原研グラウンドは阿漕ヶ浦公園、大神宮、虚空蔵堂からも近い。遊歩道等造るにしても、拠点となる駐車場の場所の決定が必要ではないかと。個人的には、これが一番大切だと思う。
 - また、日立市や海浜公園からの人の流れ及び村の商工業の発展を考えると、常設の物産店が必要であり、観光バスに対応するためトイレの整備も必要だろう。
- ⇒ 駐車場やトイレ、物産店を一箇所に設置したいということによろしいか。
- ⇒ そうだ。原研グラウンドなら、どこへもアクセスしやすい。
- 現在、さわやかトイレがあるが、あそこも国道245号拡幅に伴い駐車場が減少する。ただ、参拝客にとっては必要な場所だ。外から来る人にとって、車の乗降場所となる。
 - 一番最初に駐車場を確保しないと、話がうまく進まないのではないかと。大神宮や虚空蔵堂でイベントを行うにしても、駐車場がなければ人が集まりづらいだろう。
- ⇒ 駐車場について、原研グラウンド以外に候補地はあるだろうか。他の皆さんはいかがか。
- ⇒ 宿地区のどこかに集約させてはどうか。利用者にとっては、（阿漕ヶ浦公園・大神宮・虚空蔵堂に）近い方がいいのでは。原研グラウンドを駐車場とするならば、村松晴嵐の碑周辺を整備しないと道が繋がらないだろう。
- ⇒ 都市整備課から、（第1回委員会の際に）国道245号の近くの旧保育所側を駐車場にする案（パース図）があったが、旧幼稚園の方が樹木がないから整備しやすいだろう。こども園やコミセンで行事を行うときに、地域の人で旧幼稚園の草を刈り、臨時駐車場としたことがある。旧保育所の方は、大きな木がたくさんあるので避難公園的なものとし、樹木を残し、桜を植えて花見ができるようにしてもいいのでは。

⇒ 国道245号の拡幅で、現在のさわやかトイレ駐車場が大幅に減少する。ただ、大神宮・虚空蔵堂への参拝客等を考えると、代替場所をどこにするかは重要だ。これについては、現在の真砂寮の場所がいいと思う。

■ 3年後に国体がある。そのためにも駐車場の確保が必要だ。

■ 付箋にも書いたが、真砂寮地を買収し、駐車場・さわやかトイレ・J-PARCの入口を確保できないだろうか。こういう大きなものを造ることがこの委員会の目的ではないだろうか。

■ (真砂寮地には) 新しい建物も奥にあるようだが、独身寮は耐震基準等の観点から解体を考えなければいけないのではないか。そこを駐車場とするのも一案だろう。

⇒ 駐車場の候補地をたくさん入れる必要があるだろう。また、(場所の選定は) お金や利権が絡むことだ。条件を記載し、他の関係者が応援するような形で条件をつぶしていけばいいのでは。やりたいことと並行して、何をすべきか検討しないと、話がまとまらないのではないかと。

⇒ 確かに、実現可能性の判断の必要はある。ただ、今の段階で条件を決めてしまうと、意見が出にくくなる。条件面については、また別の機会にご意見をいただきたい。

■ 3. 11以降、阿漕ヶ浦クラブのレストランがなくなったら、阿漕ヶ浦がよく見えるようになった。整備すれば、さらに眺望がきれいになるのではないだろうか。駐車場を造れば、人が立ち寄るのではないだろうか。

■ 細かい場所の駐車場確保は考えない方がいい。国道沿いなので大型のバス等のニーズは絶対にある。また、年末年始はひどく渋滞する。

■ 正月のみの来訪者は県内3位だ。それにも関わらず、年間を通すと利用者が圧倒的に少なくなる。それは金があるから(観光に力を入れなくても村の財政が成り立ってしまっていたということ)だ。

■ 通常の道の駅ではオートキャンプができないが、(村松地区に造る)駐車場ではできるといい。

⇒ オートキャンプは海岸があるので、新川の河口の方がいいのでは。発電所があるので、景観が良いとは言えないかもしれないが、自然と融和できる場所の方がいいだろう。

⇒ 阿漕ヶ浦周辺をイメージした。駐車場だけではもったいないので、オートキャンプなどで活用できればと思う。

⇒ 新川の辺りには、東京の早稲田のエアガンショップからサバイバルゲームをしに来ている人もいる。

⇒ そういった人も駐車場やトイレがあれば、休憩等で利用するだろう。あとはPRだ。観光会社などにPRしないと、売り込まないとダメだ。黙っているだけでは見過ごされてしまう。那珂湊のおさかなセンターは観光バスがすごい。そういう例もあるのだから、うまくやりたい。

<村松晴嵐の周辺整備について>

■ 村松晴嵐の認知度が低い。なかなか整備できず、荒れ果てている。水戸八景の中でも一番荒れているのではないかと。

■ そもそも、「観光資源を活かそう」という意識が役所・住民の間で低い。その代表が村松晴嵐だ。

■ 大神宮・虚空蔵堂に入る道を新しく造るのもひとつだ。表門へ続く道と裏手へ続く道を一体

で整備すれば、村松晴嵐も生きるだろう。

⇒ 大神宮や虚空蔵堂周辺は良いかもしれないが、村松宿通りがもっと寂れてしまうのではないか。

⇒ 宿場町であり、門前町であり村の歴史の中では重要な歴史を占める場所だ。周辺整備を積極的に進めるべきだ。

<松枯れについて>

■ つい先日、観光ボランティアガイドの方に案内をしてもらいながら八間道路を歩いたが、八間道路は現在、狭いところは二間道路となっている。昔の道路の再現をしてはどうか。

■ 環境が悪いのか分からないが、大きい松は松くい虫にくわれている。八間道路を開発したとしても、枯れた松ばかり目立つだろう。

⇒ 松くい虫対策については、国や県レベルでも取り組んでいるはずだ。ここだけでなく、鹿嶋市の方まで松くいにやられているようだ。対応しようにも、あまりにも広範囲で金もかかる。

■ 元の白砂青松に戻れない気がする。高い松がほとんどない。低い松ばかりだ。松が食われたら雑木林になってしまう。

<八間道路について>

■ ボランティアガイドの説明によると、八間道路には昔は海の方から参拝に来た人もいるとのことだった。

⇒ 私が小さい頃は、向渚へ渡し舟で来て、海岸をずっと歩いてくる人や常陸太田方面から久慈浜まで電車で来て参拝する人もいたかと思う。

⇒ 昔は八間道路に店がたくさん並んでいた記憶がある。

⇒ 地域の人でも十三詣りのときは八間道路の入口まで店を出していた。

■ 一番シンプルなのは、J-PARCの入口を造ってあげることだ。八間道路の買収をして、阿漕ヶ浦公園から駅までまっすぐ抜けられるようにすることだ。

⇒ J-PARCの進入路については、村の課題でもある。そこについては、本委員会の中でも、どこを通すのが良いのかご意見いただきたい。そこから地元へ落とし、認めてもらったうえで話が進むのだと思う。

<国道245号4車線化に伴う隧道（地下トンネル）の設置について>

■ 国道245号が4車線になるなら、（歩行者用の）信号を造らず隧道（地下トンネル）でつなげたい。笠松運動公園のイメージだ。駐車場と道の駅と阿漕ヶ浦公園をつなぐ、J-PARCのテーマパーク的なものも一緒に造る必要があるかと思う。

⇒（J-PARCテーマパークや駐車場敷地の）大きさなどを考えると、場所は原研グラウンドや真砂寮の辺りになるかと思う。バスの動線やどちら側に駐車場を造るかなど、検討事項はあると思うが、そういったことは後でもいいだろう。おおよそ目安で考えればいいのか。ただ、それほどの場所を確保するだけの敷地がないのではないか。

<道の駅について>

■ 日立市を除き、銚田市～北茨城市にかけて（海岸沿いには）道の駅がないのではないか。

- ⇒ 今まで、東海村には「道の駅」（を造る）という発想はなかったのか。
- ⇒ 「にじのなか」がそのイメージに近いだろう。
- ⇒ 常陸太田市や常陸大宮市には道の駅がある。過剰に造っても良くないだろう。
- ⇒ 東海村の商工業発展には寄与できるだろう。大空マルシェでは、村内のお店が出店し、利用客が増えたのではないか。このように、（イベント時等に）点在する店が一箇所に集まることで一定の効果があるのではないだろうか。
- ⇒ ただ、一時的ではダメだろう。継続的なPRをするなど、役場がフォローしなければいかなくなるのではないか。
- ⇒ 交流を目的とする、お祭りのなものかもしれないが、那珂市の「カミスガプロジェクト」は、うまくいっているのではないか。
- ⇒ 国道245号沿いにある、ひたちなか市長砂のJAの直売所は、福島からの観光バスが来るなど、多くの人でにぎわっているようだ。せっかく国道があるのに、それを使わない手はない。
- 各エリアの名所を繋げていくこともこの計画の中で取組むことなのだろう。
- ⇒ 仰るとおりだ。名所をつなぐようなルートを作ったり、計画に人の流れを組み込んだりしていきたい。
- ⇒ 「観光客が来る」という流れと、「自分たちが楽しむ」という二つの流れがある。高齢者が歩ける範囲で安らげる場所をつくるなど、地道な取組みも考えないといけない。ハコモノだけになってしまわないようにするべきだ。

<釣りの整備及び新川の活用について>

- 付箋に「釣りの整備」とあるが、（記入者の）久賀委員いかがか。
- ⇒ 釣り場は、以前は火力発電所の辺りにあったが、津波があったら危ないということで、今は閉鎖されている。自然を活かした釣りの整備をしてもいいのではないか。
- ⇒ 堤防を造ってから魚が入ってこなくなり、今は釣りをする人はいないのでは。
- ⇒ 河口ではハゼ釣りをする人がいる。
できれば、新川に昔からいる生物の放流をしたい。私たちが子どもの頃は色々な生物がいた。今は、農薬の影響や下水が完備されて生き物が少なくなっている。魚は1種類ほどしかいないのではないだろうか。
- 新川の改修工事が始まる前までの2年間、地域のクリーン作戦の際、小学生を浅瀬に入れ、川の中を掃除をしてもらった。浅瀬ではヤマトシジミが採れ、子どもたちが大変喜んでいて。

<スポーツ合宿の活用について>

- 現在、夏休みや春休みには村松地区の旅館を利用して合宿する学校がある。阿漕ヶ浦公園や村松海岸の砂浜、駆け上がり線をトレーニングに利用しているようだ。
- 合宿により、地域が潤い、地域を見て（知って）もらえる。トレーニング環境を整えれば、継続的に、より多くの人に来てもらえるのではないか。
- ⇒ 旅館組合として、スポーツ合宿に関する希望などはあるか。
- ⇒ もっと用地を活用し、大きいサッカー場があれば、スポーツ合宿の利用者が増えるのでは。阿漕ヶ浦公園は、野球場2面・ホッケー場は芝の半分を養生し、1面のみ（子ども用の）サッ

カーグラウンドとして使える状態かと思う。県の旅館組合では、ひたちなか市内の工業団地内のサッカー場を12面借りているそうだ（ひたちなか市新光町グラウンド）。このように、広大な土地があると良い。村内では、久慈川河川敷にソフトボール場が複数ある。また、草サッカーのグラウンドが2面あるが、さらに複数面確保し、大会が開催できるようにすれば、より良くなるのではないか。

⇒（大会を開催するには）場所の確保が大変だと聞いたことがある。ひたちなか市阿字ヶ浦の旅館の方でも阿漕ヶ浦公園を確保しないと合宿ができないようだ。

⇒ 国体の際は、大丈夫だろうか。

⇒ 国体は昭和49年の経験があるが、宿区の旅館5・6軒で対応していた。今回は宿泊場所が不足するかもしれない。旅館の経営は厳しく、数が減っている。

⇒ ホッケーは参加チーム数が限定される。他競技と比べると、小規模だろう。

■ ホッケーよりフットサルの方が競技人口が多いので、人が集まるのではないか。芝は多目的に使えるようにしてほしい。

⇒ ホッケーとサッカーでは芝の長さが全く違う。多目的化するなら、丁度いい長さにしないとイケないだろう。

⇒ 多目的に使えるように整備しているところだ。

⇒（阿漕ヶ浦公園は）公式（規格）のホッケー場というが、なかなか競技する人を見ない。

⇒ 東海高校で試合があるということで、2月ごろ群馬県のホッケー部の方が宿泊した。

⇒ ホッケーは競技人口が少ない。元は原子力研究開発機構の職員が広めたものだが、指導者が複数個所にいないとダメだ。ホッケーをやりたい人の高校の選択肢が狭まる。

⇒ やはり、芝は多目的に使えるようにする必要があるだろう。

<交通及びエリアの繋がりについて>

■（村松地区は）駅から遠いのが難点だ。公共バスが復活したが、交通の便をより良くしたい。

⇒ I～MOのまつりで総合福祉センター「絆」から臨時バスが出るようなイメージで、マルシェ等のイベント時やお宮参り、七五三の時期のみ、小型バスでもいいので増便できないだろうか。

■ 付箋「外部からの来園者が留まれる場所」については、例えば、こういったものを想定しているのか。

⇒ 現在はジョイフル本田などに人が流れている。私が想定しているのは、例えば、道の駅のようなものだ。現在、村松地区は通過点になっている。外部からの来村者は試合などの目的が終わると帰ってしまう。

⇒ 仰々しくなくとも、各エリアを繋げるアクセス道路（ルート）が必要だ。中には整備が必要な箇所があるかもしれないが、アクセス道路は必要だろう。

⇒ 魅力がないと人が来ないし、エリアが繋がらない。魅力を作り出さなければいけない。目に見えるものには限界があるので、目に見えないものも活用しなければいけないだろう。

■ 魅力を創り出す努力を地域で取り組んでもいいのではないか。施設を造るのは村かもしれないが、盛り上げていくのは地域で支えないとハコだけになってしまう。みんな（地域）が動かないと、広がらないのではないか。

■ 環境保全の観点では、細浦青畝は村としても自然を残す必要があると考えている。また、真

崎古墳群や天神山のエリアは、歴史的なものや自然がたくさんある。そういったものを残しつつ、活用することについて考えたい。

⇒ そのとおりだ。残すだけではだめだ。活用するために何をするか考えなくてはいけない。

<その他>

- ジョイフル本田や海浜公園エリアには、年間300万人の観光客が訪れている。東海村はそれをただ指をくわえて見ているだけではない。村松地区の再開発は、北から流れてくる観光客をいかにせき止めるかだ。商業・観光に力を入れ、人の流れの10分の1でも（東海村へ）引き入れたい。トイレで立ち寄ったついででもいいだろう。60年間何もなかった観光資源を盛り上げたい。
- 科学の最先端J-PARCのテーマパークと歴史ある大神宮・虚空蔵堂の融和がベストではないか。行政が先頭になってつくるべきだ。“科学と歴史の融和”は、他市町村にはない東海村唯一無二のものではないか。
- 原子力普及センターは廃止して、テーマパークを造るなど、原子力機構も新しい提案をしてもいいのではないか。
- 細浦、阿漕ヶ浦の美しい自然が残っているので、村内外の人に見てもらおうという意識が必要だ。

グループワークのまとめ

<Aグループ／報告者：大友課長補佐>

Aグループでは「村松地区のにぎわいを創出するには、どのようなものが必要」か、というテーマで議論したところ、まず、「核となるものが必要」との意見があり、「道の駅」や「休憩・食事ができる場所」が必要との意見が多かった。加えて、地区の歴史的なところ・自然豊かなところ及び景観がにぎわいづくりには重要だという意見が出された。

また、国道245号の4車線化により村松地区が分断されることが懸念され、安全に（道路を）渡れるような繋がりが必要だということ、それに関連して、駐車場の確保についても意見をいただいた。にぎわいを創出するためには、お客さんが来るための駐車場が現時点で不足しており、駐車場の確保について、にぎわいづくりと並行して考える必要がある。科学に関するご意見としては、J-PARC等の原子力関連施設が立地しているので、それらの活用をしたいという意見があった。

また、イベントとして、村松海岸から阿漕ヶ浦公園にかけてトウカイヤスロン（トライアスロン）の実施や、ランニング等健康づくりやスポーツに活用したいとの意見があった。その他、旧保育所幼稚園跡地については、南からの入口に当たるので、案内所を設置するのが望ましいとの意見をいただいている。

<Bグループ／報告者：高橋課長補佐>

Bグループでは、エリアを意識した意見のカテゴリ分けを行った。阿漕ヶ浦公園エリアでは、

このエリアに駐車場を確保すると良いのではとの意見や、公園を活用して村松地区とのつながりを意識することが大切だとの意見をいただいた。

次に、村松周辺エリアについては、道の駅や八間道路を活用した整備を検討することや、水戸八景である、村松晴嵐周辺の整備の必要性、また、村松海岸を中心にスポーツ合宿のしやすい環境整備が必要だとのご意見をいただいた。

幼稚園保育所用地エリアについては、このエリアに駐車場があってもいいのではないかとという意見や、新川の自然を活かして、子どもたちが川の生き物などと戯れることができるような整備をしてはいかがかという意見があった。

計画対象エリア全体に係る意見としては、駅からの交通の便を良くすることや、旅行会社への売り込み等、観光面での積極的なPRが必要だとの意見をいただいた。今回のコンセプトの決定へ繋がる理念的なところとしては、「科学と歴史の融和は東海村唯一のものではないか」という意見をいただいた。細浦青畝エリアについては、緑地や自然の保全の必要性についてご意見いただき、その他、本日カテゴリ分けできなかった意見があるが、こちらについては、第3回会議までに事務局でカテゴリ分けを行い、みなさまへ提示したいと考えている。

<小原委員長コメント>

Aグループでは広くいろいろな可能性を検討いただいた。Bグループでは始めにひとつの筋道が立ち、それに沿って話が展開されたと思う。それぞれ違ったやり方で議論が進んできたものの、共通性があるのではないかと思う。この後、事務局と意見の整理をし、コンセプトについて皆さんに議論していただく。本日、キーワードとしてでてきたのは、「近づきやすさ」だ。専門用語で言うと、「到達可能性」だが、この委員会においては、心理的・物理的到達可能性を大きな柱にしていけるのではないかと感じた。例えば、「駐車場への行きやすさ」は物理的到達可能性、「希少動物や植物がそこにあるということを知ってもらうこと」は、心理的到達可能性に当たる。東海村のみなさまにとっては、その辺りが今後のまちづくりのターニングポイントとなるのではないだろうかと思う。

国道245号を走っていると、村の長らくの発展を支えてきた原子力関連施設があるが、外から見ると、どうしても、ある種の近づきにくさを感じてしまう。ただ、みなさまの考えの中には、「今後の東海村は、あらゆるところへ近づきやすさを創っていく必要がある」という意識があり、そこからスタートすべきだということが分かった気がする。J-PARCへの近づきやすさなど、「繋がり」という言葉がでていたが、エリアを繋げて面的に動いてもらう仕組み（ルート）を考えるのが重要だということについては、Aグループ・Bグループ共に、大まかなレベルで共通しているのではないかと思う。実は、到達可能性という言葉は、ドイツには「エアライヒバル」という専門用語があり、あらゆることについて「到達可能性」を高めようというまちづくりが行われている。まさに、これからの東海村のまちづくりに合致していくのではないだろうか。もちろん、これだけにこだわらず、意見を広げて、次回までに事務局と意見をまとめ、しっかりしたものをご提案していきたい。

議題（2）その他（事務局より）

- ・ 次回委員会については、1月頃の開催を予定している。
- ・ 本日の委員会でいただいた意見を事務局で整理させていただき、みなさんへ提示したい。その

上で、本計画のコンセプトについて、今回と同様にグループワーク形式で議論し、次回委員会でコンセプトの決定まで行いたい。

4 閉会（関田企画経営課長）

（以上）